

Mémoire 2024

第68回 大阪杯(GI)



混戦を制して初戴冠 ベラジオオペラ

直線の長い競り合いを制し、念願のGI初制覇となった。

ステップ競走の中山記念を制したマテンロウスカイはドバイを、金鯱賞を圧勝のプログノースは香港を目指したため不在となった春の中距離王者決定戦。5番人気までが単勝オッズ10倍以内という混戦模様の中、1番人気は前年の日本ダービー馬で、有馬記念6着以来のレースとなるタスティエーラ。2番人気はその日本ダービーでタイム差なしの4着に惜敗しているベラジオオペラとなった。

逃げたのは、これが約10か月ぶりの復帰戦となる2年前の秋華賞馬スタンングローズだった。ベラジオオペラが押して2番手へ。近走は中団で脚を溜める競馬でチャレンジC優勝、京都記念2着と好走が続いていたが、横山和生騎手が「とても操縦性のいい馬なので、思い切って運びました」と明かしたように、馬場の状態やメンバーを考慮した結果、レース前から狙っていた先行策だった。

向正面に入ると後方にいたローシャムパークが一気に上昇し、あっという間に2番手のベラジオオペラの直後にまで迫って3、4コーナーへ。直線、残り200m手前でスタンングローズを交わして先頭に立つ

ベラジオオペラ。そのすぐ外から並びかけようとするローシャムパーク。息詰まる競り合いに、さらに後方からルージュエヴァイユとステラヴェローチェも加わる。大激戦のゴール前は、しかしベラジオオペラが最後までわずかな差を守り切った。

レース後、横山和生騎手は「ダービーの悔しさをずっと忘れられなくて、今回は絶対にこの馬と一緒に勝ちたいと思っていたので、最高に嬉しいです」と笑顔でコメント。開業6年目でこれが自身のGI初制覇となった上村洋行調教師も、「この馬で何とかGIをと思っていた」と、期待していた素質馬でついに掴んだ勲章を喜んだ。

第68回大阪杯(GI)

3/31 阪神競馬場 2000m(芝・右) 晴・良 16頭									
着順	馬名	性別	斤量	騎手名	調教師名	タイム/育成	人気	通過順位	
1	ベラジオオペラ	牡4	58	横山 和生	上村 洋行	1:58.2	②	2	2
2	ローシャムパーク	牡5	58	戸崎 圭太	田中 博康	クビ	③	13	12
3	ルージュエヴァイユ	牝5	56	菅原 明良	黒岩 陽一	ハナ	⑪	12	11
4	ステラヴェローチェ	牡6	58	酒井 学	須貝 尚介	1/2	⑦	9	8
5	ジオグリフ	牡5	58	北村 宏司	木村 哲也	1	⑧	4	5

ベラジオオペラ
栄光の蹄跡

11

ロードカナロア 1171
ベラジオオペラ
エアルーティーン(ハービンジャー)
2020.4.7 生 千歳・社台ファーム



牡4 横山 和生
1993.3.23生 A型
58 林田 祥来氏
上村 洋行(栗東)

2024.2.11 京都
京都記念 G II
12ト 1人 2(114)
57*。横山 和生
芝2200良 2:12.2

2023.12.2 阪神
チャレンジC G III
13ト 3人 1(117)
57*。横山 和生
芝2000良 1:58.8

2023.5.28 東京
日本ダービー G I
18ト 9人 4(116)
57*。横山 和生
芝2400良 2:25.2